



東京学芸大学リポジトリ

Tokyo Gakugei University Repository

公式ウェブマガジンedumottoにおける産学連携による活動の推進：
NHKとの連携による取り組みの実践報告

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-04-11 キーワード (Ja): キーワード (En): How to communicate as a media and how to teach as a teacher, Sense of ownership, Industry-academia collaboration, Workshop, Open campus, Practical report, Official Web Magazine 作成者: 荻上, 健太郎, 加藤, 桂子, 金子, 嘉宏, 大島, 菜々子, 松田, 千皓 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2309/00180027

公式ウェブマガジン edumotto における産学連携による活動の推進

— NHK との連携による取り組みの実践報告 —

荻上 健太郎*¹・加藤 桂子*¹・金子 嘉宏*¹
大島 菜々子*²・松田 千皓*³

教育インキュベーションセンター

(2022年9月26日受理)

1. はじめに

本学では、2021年8月25日、公式ウェブマガジン「教育を面白くするメディア『edumotto (エデュモット)』」(以下、「edumotto」とする。)¹⁾ をスタートした。edumottoは、本学のブランディングを目的に、学生と教職員からなる編集チームを組成し、合同で運営する大学公式のウェブメディアである。

edumottoは、大学の情報発信や広報を担うメディアであるとともに、学生が編集チームの主体を担うという運営の特性を踏まえた教育活動としての側面、さらには所管する教育インキュベーションセンターの役割使命としての産学連携等のオープンイノベーションの推進という役割も担っている。この産学連携によるオープンイノベーションの推進の一環として、2021年10月より、日本放送協会(以下、「NHK」とする。)²⁾ との連携・協働を開始した。NHKとは、双方がメディアであることならびに本学が教員養成を主とする大学であることを踏まえ、「メディアとしての伝え方と教員としての教え方」を軸に、当事者になれないもしくははりにくいテーマや問題について、どのように向き合っていくのかあるいは発信、教えていくのかを題材に、ワークショップ等の企画・実践を協働により進めている。

大学におけるメディアと当事者性に関する研究は、水俣病とその語り部に着目して学生の当事者性の獲得を研究するもの(池田, 2011)や、地域メディアにお

けるつながりと当事者性に着目した研究(深澤, 2013)、戦争体験者の証言を活用した平和教育における当事者性の獲得に関する研究(佐藤ほか, 2022)などがあるが、ウェブマガジン等によりメディアとしての発信まで取り組む活動や教員養成との関連性に関する研究はほとんど見られない。大学の公式ウェブマガジンであるedumottoが、産学連携のもと、メディアとしての活動と教員養成大学としての教育活動の双方を通じて、当事者性をテーマとして「メディアとしての伝え方と教員としての教え方」に取り組むことは、大学と社会とのコミュニケーションのあり方や教員養成大学における教育活動のあり方に対する新たな可能性や方法の提示にもつながる重要なものであると考える。

そこで、本稿では、2022年2月に実施したオンラインワークショップと2022年7月に開催された本学オープンキャンパス2022におけるワークショップの実践について報告を行う。

2. 東京学芸大学公式ウェブマガジン edumotto について

本学では、2021年8月25日に、本学の公式ウェブマガジンとしてedumottoを創刊した。edumottoは本学のブランディングを主目的としたウェブメディアである。

「教育をもっと面白くする」をテーマに、教育の未来、社会とつながる教育、教育を深掘り、学芸の人、

*1 東京学芸大学 教育インキュベーションセンター (184-8501 東京都小金井市貫井北町 4-1-1)

*2 東京学芸大学 大学院教育学研究科

*3 東京学芸大学 教育学部特別支援教室 教員養成課程 言語障害教育専攻

以上の4つの柱を軸とし, edumotto+, 教育の未来, みちしるべ, Labエージェント, カッコつけない本棚, What do you think?, せんせいのーと, 未来の学校, Explayground以上の9つのコーナー (2022年9月時点) を設けて発信を行っている。



図1 edumottoのトップページ (東京学芸大学, 2022)

edumottoの運営は, 本学の学生と教職員からなる編集チームを組成し, 学生と教職員が一緒に, コンテンツの企画から取材, 編集, サイト管理そしてワークショップ等の活動まで, プロジェクト推進やサイト運営全体を担っている。

2022年9月時点では, 30名の学部学生および大学院生が編集チームに参加している。その内訳を学年, 類・コース別に見ると, 下記の通りとなっており, 教育の総合大学である本学らしい多様なメンバー構成となっている。

- ①学年別: 1年3名, 2年9名, 3年9名, 4年5名, 大学院1年4名。
- ②類・コース別: A類10名 (国語科, 社会, 国際教育, 学校教育, 英語, 数学科, 美術, 音楽科), B類7名 (社会, 美術, 音楽, 家庭), C類5名 (言語障害, 発達障害教育, 学習障害), D類1名 (養護教育), E類3名 (生涯学習コース, 表現教育), 大学院4名 (次世代日本型教育システム研究開発専攻, 教育支援協働実践開発専攻 (教育AI研究プログラム, 教育支援協働実践開発専攻, 教育協働研究プログラム))。

3. NHKとの連携の経緯と取り組み

連携パートナーであるNHKとは, 2021年10月頃, NHKが推進する「#あちこちのすずさん」³⁾ワークショップの本学での開催に関する相談から関係がスタートした。当初は, NHKが各地の大学と取り組む既存のワークショップ企画をベースとした相談であったが, 本学が教員養成大学であることを踏まえ, 教員や学校が直面する様々な課題について, メディアと大

学という双方の立場をいかすことで新たな連携を共創できる可能性があることを提案し, 以降, NHKとedumottoあるいは本学ならではの連携のあり方について協議を重ねることとなった。

その結果, 学生メンバーからの「将来教壇に立ったときに, 自分が体験したことがないことを教えることへの不安」というコメントをきっかけに, NHKとedumottoの双方がメディアであること, ならびに本学が教員養成を主とする大学であることを踏まえ, 「メディアとしての伝え方と教員としての教え方」を軸に, 当事者になれないもしくはなりにくいテーマや問題について, どのように向き合っていくのか, そして伝え, 教えていくのかを題材としたワークショップ等の企画・実践を進めていくこととなった。

コロナ禍の影響による延期等がありながらも, 2022年2月27日に, 1回目の共同企画となる「Twitter発信で話題の大崎さんからの想いを『聴いて』『創って』『紡いで』いこう～“今を楽しむ” SNS発信と戦争の記憶～」と題したオンラインワークショップを開催した。本ワークショップでは, 89歳でツイッターのフォロワーが18万人を超える (2022年9月時点) 大崎博子さん⁴⁾をゲストとして招待し, 戦時下における暮らしや日常に関する大崎さんの話を参加した小学生が聞き, edumotto学生メンバーが小学生のメンターとしてサポートしながら, 大崎さんへの質問や対話を通して考えたことや感じたことをイラストで表現する活動に取り組んだ。



図2 ワークショップで扱ったトークテーマ (東京学芸大学, 2022)

edumotto学生メンバーにとっては, 自身が体験したことのない戦争や戦時下の暮らしについてメンターとしてサポートする経験を通じて, 将来教壇に立ち戦争や平和について教える立場になったときのことを考える貴重な機会となった。

4. オープンキャンパス2022でのワークショップ

4. 1 ワークショップの企画概要

2022年7月23日に開催された本学のオープンキャンパス2022において、NHKとedumottoによる2回目の共同企画としてワークショップを実施した。本ワークショップの企画においては、改めて、NHKとedumottoの連携の軸である「メディアとしての伝え方と教員としての教え方」ならびに「当事者になれないもしくはなりにくいテーマや問題にどのように向き合うのか」を題材として協議を重ねた。

その結果、オープンキャンパスという場の特性（主に高校生等の入学希望者向けに大学を紹介する、知ってもらう機会）を踏まえ、主要な対象を高校生と設定した上で、NHKとedumottoがそれぞれの特性やリソースをいかし、下記の3部構成でのワークショップ企画を立案した。

<ワークショップの構成>

- 第1部：edumotto×NHKラジオ～edumotto学生メンバーのこれまでと今～
- 第2部：大学生に質問してみよう！
- 第3部：「教える」視点で考えよう！～平和学習への向き合い方～

4. 1. 1 第1部（edumotto×NHKラジオ～edumotto学生メンバーのこれまでと今～）について

第1部は、「edumotto×NHKラジオ」と題し、edumotto学生メンバーがあらかじめ作成した「自分史」および東京学芸大学の「オススメ」をもとに、NHKメンバーと学生メンバーがラジオ番組の形式で語り合い、教員を志望したきっかけや本学の魅力、学生生活等について紹介する。

4. 1. 2 第2部（大学生に質問してみよう！）について

第2部は、「大学生に質問してみよう！」と題し、NHKの「ねほりんぱほりん」⁵⁾という番組のディレクターが学生メンバーに根掘り葉掘り質問を行い、参加する高校生等の知りたいに答えるとともに、メディアならではの聞く力を体験する。

4. 1. 3 第3部（「教える」視点で考えよう！～平和学習への向き合い方～）について

第3部は、「教える視点で考えよう！」と題し、

NHKの「#あちこちのすずさん」プロジェクトを題材に、将来教員として教える立場になることを意識した上で、平和学習についてedumotto学生メンバーとNHKメンバー、そして参加者が一緒に考える。

図3 ワークショップでのチラシ
(東京学芸大学, 2022)

4. 2 ワークショップの実施状況

続いて、本ワークショップの実施状況について報告する。

4. 2. 1 参加者数

本ワークショップの参加者数は、第1部から第3部までの合計で109名であった。その内訳は下記のとおり。

- 第1部：36名（生徒24名，大人12名）
- 第2部：36名（生徒21名，大人15名）
- 第3部：37名（生徒24名，大人13名）
- 合計：109名（生徒69名，大人40名）

4. 2. 2 ワークショップの様子



図4 ワークショップ第1部の様子
(東京学芸大学, 2022)



図5 ワークショップ第2部の様子
(東京学芸大学, 2022)



図6 ワークショップ第3部の様子
(東京学芸大学, 2022)

4. 3 ワークショップ後の振り返り

オープンキャンパスでのワークショップ終了後、edumotto 学生メンバーとNHKメンバーでの振り返り会を実施した。この振り返り会では、

- ・参加した高校生から、平和学習に対する当事者意識についてコメントをもらうことができ、企画趣旨に沿った手応えを感じた。
- ・学科紹介とは異なる内容を現役学生・大学院生の生

の声として紹介することができ、オープンキャンパスの趣旨と自分たちの企画趣旨の両立ができた。

- ・3月から丁寧に打ち合わせを重ねてきたことで、edumottoとNHKのメンバーが一つのチームになって運営を行うことができ、協働の手応えを感じた。
 - ・双方の特性やリソースをいかすことで、NHKとedumottoの連携ならではのワークショップを実現できた。
 - ・事前の準備におけるミーティングの進行や各種資料等の準備、当日における場の回し方や質問の投げ方など、メディアのプロであるNHKメンバーとの協働から学ぶことが多かった。
 - ・学生メンバーとの協働を通じ、NHKメンバーだけでは気づかない視点や発想、アイデアをもらう機会も多く、刺激と学びの多い取り組みになっている。
 - ・コロナ禍で対面型のイベント等の機会が減り、オープンキャンパス自体も3年ぶりの対面開催となったこともあり、対面型の活動ならではの経験を得ることができた。
 - ・コンテンツを盛り込みすぎたため、参加者との対話の時間を十分に取ることができなかった。
- 以上のようなコメント・感想が各メンバーより出された。

ここまでの取り組みを通じ、NHKとedumottoの連携の軸である「メディアとしての伝え方と教員としての教え方」と「当事者になれないもしくはなりにくいテーマや問題にどのように向き合うのか」をテーマにした具体的な活動が進んでおり、パートナーである双方にとって連携の意義や価値に対する手応えを感じることができるようになってきた。今後も、本連携を推進するとともに、取り組みを通じた学びと経験による効果や変容についても注視していきたい。

5. おわりに

本稿では、本学の公式ウェブマガジンであるedumottoとNHKの産学連携による活動の具体的な取り組みについて報告を行った。本連携の実現と遂行にあたっては、連携の相談当初から終始温かなご理解と積極的なご協力をいただいている、NHK首都圏局西東京営業センターの山口浩典氏、穂葉伊純氏、NHKクリエイターセンター(チーフ・リード)の春日真人氏、NHKメディア総局デジタルセンターの石丸響子氏に心より深謝の意を表したい。また、ワークショップの企画・実施にあたっては、NHKクリエイターセンター第1制作センターの山登宏史氏、NHKメディ

総局展開センターの甲村奉子氏に多大なるご協力をいただいたことに感謝の意を表したい⁶⁾。

そして、学業とedumottoの活動を両立し、NHKとedumottoの共同ワークショップの企画から当日の運営までを担ってくれた、石川智治氏、入野舞耶氏、片山なつみ氏、河野芽唯氏、佐藤晴氏、千葉奈穂美氏、徳田美妃氏、松永裕香氏、以上のedumotto学生メンバーにこの場を借りて感謝と慰労の意を表したい。今後も、edumottoとNHKの産学連携の取り組みをさらに推進するとともに、取り組みから得られる効果や変容についても調査を続けていくこととしたい。

註

- 1) 東京学芸大学公式ウェブマガジン「教育を面白くするメディア『edumotto』」(<https://edumotto.u-gakugei.ac.jp/>) [2022年9月20日 最終閲覧日]
- 2) 日本放送協会 (NHK) (<https://www.nhk.or.jp/>) [2022年9月20日 最終閲覧日]
- 3) #あちこちのすずさんワークショップ (<https://www.nhk.or.jp/special/special/suzusan/>) [2022年9月20日 最終閲覧日]

- 4) 大崎博子さん (<https://twitter.com/hiroloosaki>) [2022年9月20日 最終閲覧日]
- 5) ねほりんばほりん (<https://www.nhk.jp/p/nehorin/ts/N1G2WK6QW5/>) [2022年9月20日 最終閲覧日]
- 6) 記載の部署・役職名は2022年7月時点

文献

- 池田理知子, メディア・リテラシーと「当事者性」, スピーチ・コミュニケーション教育, 2011年24巻, 51-60, 2011
- 深澤弘樹, 地域メディアの意義と役割: 「つながり」と「当事者性」の観点から, 駒澤社会学研究, 2013年45号, 73-95, 2013
- 佐藤宏之ほか, 「戦争体験」を活用した平和教育における「当事者性」の獲得: 歴史的アプローチ, 倫理学・哲学的アプローチに着目して, 鹿児島大学教育学部教育実践研究紀要, 2022年31巻, 11-20, 2022

公式ウェブマガジン edumotto における産学連携による活動の推進

—— NHK との連携による取り組みの実践報告 ——

Promotion of Industry-academia Collaboration in the Official Web Magazine “edumotto”:

Practical Report on Initiatives in Cooperation with NHK

荻上 健太郎*¹・加藤 桂子*¹・金子 嘉宏*¹
大島 菜々子*²・松田 千皓*³

OGIUE Kentaro, KATO Keiko, KANEKO Yoshihiro,
OSHIMA Nanako and MATSUDA Chihiro

教育インキュベーションセンター

Abstract

This is a report on the activities of “edumotto”, the official web magazine of Tokyo Gakugei University, and NHK, as part of an industry-academia collaboration. This activity is based on the theme of “how to communicate as a media and how to teach as a teacher,” taking into consideration the fact that both parties are media and that Tokyo Gakugei University is mainly engaged in teacher training, and how to face, communicate, and teach about themes and issues that are difficult or impossible to be a party to. This paper reports on the online workshop conducted in February 2022 and the workshop at the University's Open Campus 2022 held in July 2022. Edumotto is managed by an editorial team consisting of students and faculty members of the university, and is operated by students and faculty together. Since this kind of media operation at a university is rare, and an industry-academia collaborative effort with the theme of “how to communicate as media and how to teach as teachers” is also rare, we will continue to investigate the effects and changes resulting from edumotto's efforts and activities through industry-academia collaboration.

Keywords: How to communicate as a media and how to teach as a teacher, Sense of ownership, Industry-academia collaboration, Workshop, Open campus, Practical report, Official Web Magazine

Center for Open Innovation in Education, Tokyo Gakugei University, 4-1-1 Nukuikita-machi, Koganei-shi, Tokyo 184-8501, Japan

要 旨

本学の公式ウェブマガジンである edumotto は、産学連携の一環としてNHK との協働による取り組みを行っ

*1 Tokyo Gakugei University (4-1-1 Nukuikita-machi, Koganei-shi, Tokyo, 184-8501, Japan)

*2 The Graduate School of Education, Tokyo Gakugei University

*3 Tokyo Gakugei University

ている。双方がメディアであることならびに本学が教員養成を主とする大学であることを踏まえ、「メディアとしての伝え方と教員としての教え方」を軸に、当事者になれないもしくはなりにくいテーマや問題について、どのように向き合っていくのかあるいは発信、教えていくのかを題材とした活動について実践報告を行うものである。本稿では、2022年2月に実施したオンラインワークショップと2022年7月に開催した本学のオープンキャンパス2022におけるワークショップについて報告する。edumottoは本学の学生と教職員からなる編集チームを組成し、学生と教職員と一緒に運営を行っている。大学におけるこのようなメディア運営は珍しく、また、「メディアとしての伝え方と教員としての教え方」をテーマとした産学連携による取り組みも希少なものであることから、edumottoの取り組みや産学連携による活動から得られる効果や変容については引き続き調査を行っていくこととしたい。

キーワード: メディアとしての伝え方と教員としての教え方, 当事者性, 産学連携, ワークショップ, オープンキャンパス, 実践報告, 公式ウェブマガジン